

令和6年度全国学力・学習状況調査 結果分析【津市詳細版】

1 調査の概要

(1) 調査の目的

津市教育委員会及び学校が、学習指導要領に示している資質・能力の獲得状況について、全国的な状況との関係において、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。市内のすべての学校が、各児童生徒の学力及び学習状況をより客観的に把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てます。

(2) 実施日

令和6年4月18日（木）

(3) 調査実施人数(津市)

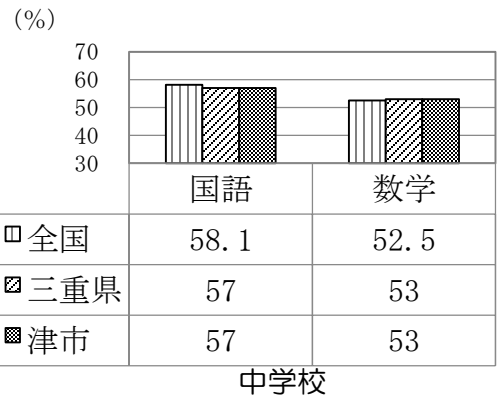
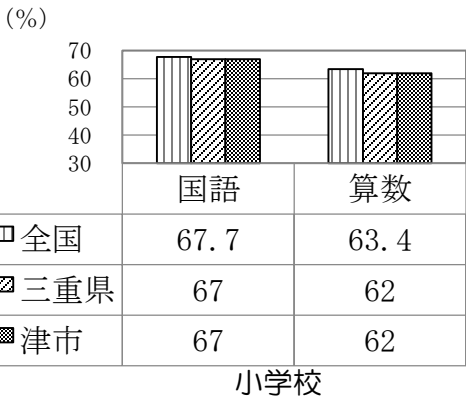
小学校第6学年児童 約2,040人

中学校第3学年生徒 約1,920人

(4) 調査内容

国語、算数・数学、質問紙調査

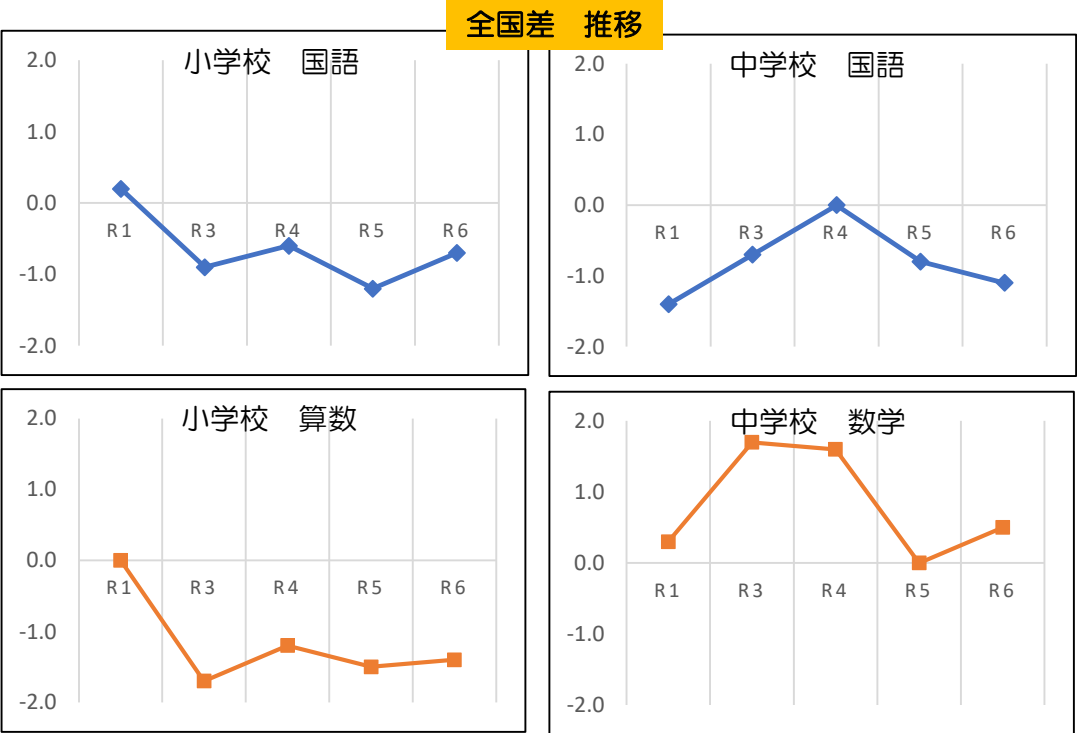
2 平均正答率



3 平均正答率推移

小学校	令和元年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	津市	全国	津市	全国	津市	全国	津市	全国	津市	全国
国語	64	63.8	64	64.7	65	65.6	66	67.2	67	67.7
算数	67	66.6	68	70.2	62	63.2	61	62.5	62	63.4

中学校	令和元年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	津市	全国	津市	全国	津市	全国	津市	全国	津市	全国
国語	71	72.8	64	64.6	69	69.0	69	69.8	57	58.1
数学	60	59.8	59	57.2	53	51.4	51	51.0	53	52.5





小学校

国語

1- (正答率60.6% 全国差▲1.9 無回答率0.8%)

日常生活の中から目的や意図に応じて、話題を決め、伝え合う
内容を検討することができるかどうか

【第5・6学年 思考力、表現力、判断力等 A 話すこと・聞くこと】

「お互いの学校の取組の良い点を比べて伝えようとしている」と捉えた誤答が多い結果となりました。中学年において、集めた材料を比較するなどして、必要な事柄を選ぶ経験は積んでいるものの、本設問で求められる目的や意図に応じて優先順位を考えるなど、伝え合う内容を検討する際に、集めた材料を関係付ける力が十分身に付いてないことが考えられます。

学習指導に当たっては、相手と交流する前に、話し合いの目的や方向性、聞き手が求めていることを知り、それらを踏まえて、展開や内容を想定し、伝え合う内容を検討する場面を設定することが重要です。その際、集めた材料を聞き手が知りたい内容と自分が伝えたい内容に整理したり、目的に応じて、優先順位を考えたりできることが大切です。また、必要に応じて提示する資料を選択するよう促す活動を取り入れることが効果的です。

参考：国立教育政策研究所
報告書（小学校 国語）P 22から23



解説



アイディア例 P11～

算数

4 (4) (正答率50.2% 全国差▲3.9 無回答率3.6%)

速さの意味について理解しているかどうか

【第5学年 C 変化と関係】

自転車の速さが、家から郵便ポストまで分速200m、郵便ポストから図書館まで分速200mであるとき、家から図書館までは分速400mと答えた児童の割合が27.7%で、誤答の中で最も多い結果となりました。

道のりと時間が比例関係にあることに着目して、速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解できるようにすることが重要です。

学習指導に当たっては、例えば、家から図書館までの道のりとかかった時間を用いて、自転車の速さを求める活動が考えられます。その際、家から郵便ポスト、郵便ポストから図書館までの道のりと時間を読み取り、1分間あたりに進む道のりがいつでも200mで変わらないことを捉えることができるようにすることが大切です。また、家から図書館までの道のりと時間から速さを計算して求めることで、分速200mであることを確認することができるようになることも大切です。

参考：国立教育政策研究所
報告書（小学校 算数）P 65から72



解説



アイディア例 P12～

中学校

国語

2- (正答率33.5% 全国差▲2.8 無回答率1.1%)

文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することが
できるかどうか

【第2学年 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと】

無回答率は1.1%となっており、全体と比べて低かったものの、4つの選択肢の中から2つを選ぶことができていなかった誤答が、全国平均・県平均よりも多い結果となりました。

図表や写真などを含む説明的な文章を読む際には、示されている図表などが、文章のどの部分と関連しているのかを確認するなどして、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ること、図表などを示すことで文章にどのような効果が生まれているのかを考えることが重要です。

その際、図表などが文章中にある場合とない場合とを比較し、図表などが示されていることによって何がどのように分かりやすくなるのかを説明し合うことで、筆者が図表などを用いた意図を考えるように指導することが有効です。

参考：国立教育政策研究所
報告書（中学校 国語）P 37から39



解説



アイディア例 P17～

数学

7 (2) (正答率23.4% 全国差▲2.5 無回答率28.1%)

四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して
読み取ることができるか

【第2学年 D データの活用】

箱ひげ図を活用して、数学的に処理することに課題があります。無回答率も高く、箱ひげ図の意味の理解にも課題があると考えられます。

日常生活では、表やグラフ等からデータの傾向を適切に読み取り、批判的に考察し判断することが求められる場合があり、その際に判断の理由を数学的な表現を用いて説明できることが重要です。

本設問では「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、箱ひげ図の箱の位置が右側にずれていっているから」、「速さがだんだん速くなるにつれて、第1四分位数と第3四分位数が大きくなっているから」といったように、判断の理由を箱の位置や四分位数等を根拠として説明できるようにすることが大切です。

また、複数集団のデータ分布を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにしていくことが必要です。

参考：国立教育政策研究所
報告書（中学校 数学）P 50から55



解説



アイディア例 P8～

5 児童生徒質問調査について

※1 数値は肯定的回答の割合 ※2 「★」は昨年度にはなかった質問
※3 「個○協○」とは個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだグループ

(1) 自己肯定感、自己有用感、幸福感等

※1

質問番号	質問事項	津市	県	全国	全国差	R5津市との差
小	9	81.8	82.4	84.1	▲2.3	1.7
中						
小	10	89.0	90.6	89.9	▲0.9	1.0
中						
小	15	95.9	96.1	95.9	0.0	0.5
中						
小	19	92.3	92.1	91.7	0.6	4.4
中						

上記の項目について、概ね上昇しており、質問に肯定的に回答している児童生徒は正答率が高い傾向があります。自己肯定感を高めるためには、子どもの努力や成果を認め、褒めることや、失敗してもその経験を次にいかす前向きな姿勢を育むことが重要です。これらを大切に教育活動を工夫していきます。

(2) 持続可能な社会の創り手の育成に向けて

質問番号	質問事項	津市	県	全国	全国差	R5津市との差
小	25	82.8	83.8	83.5	▲0.7	6.4
中						

持続可能な社会の実現をめざす教育の充実について、上記の質問に肯定的に回答している児童生徒の割合は大幅に上昇しました。学校と地域が特色をいかし、一体となって進める教育において、学校運営協議会と地域学校協働本部が両輪となり、「地域とともにある学校づくり」を進め、児童生徒が参画できる活動にも取り組んでいます。

(3) ICTを活用した学習状況

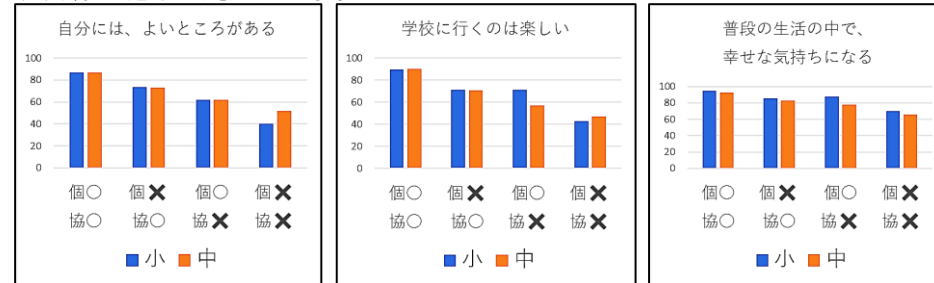
質問番号	質問事項	津市	県	全国	全国差	R5津市との差
小	27	79.8	64.7	59.5	20.3	▲6.3
中						

ICT機器の使用頻度に対する質問について、小・中学校ともに週3回以上と回答する児童生徒の割合が全国より20ポイント以上上回りました。主体的・対話的で深い学びに取り組んでいる児童生徒ほど、ICT機器活用の効力感に関して肯定的に回答し、正答率も高くなる傾向があります。また、ICT機器活用の効力感に関して肯定的に回答した児童生徒ほど挑戦心・自己有用感・幸福感等に関して肯定的に回答しています。今後も多様な子どもたちのニーズに応えるためにICT機器を効果的に活用します。

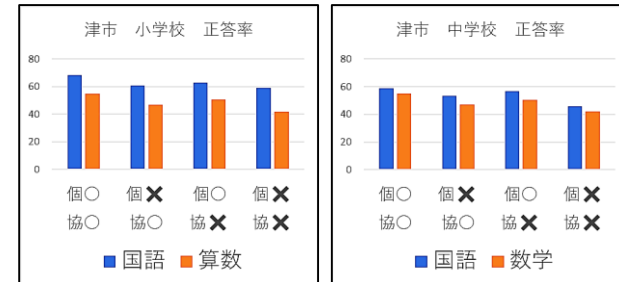
(4) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

質問番号	質問事項	津市	県	全国	全国差	R5津市との差
小	32	85.2	83.7	84.3	0.9	3.9
中						
小	37	89.9	91.6	91.6	▲1.7	★※2
中						

本市において、上記の【個別最適な学び】に関する質問について上昇しており、授業改善の一定の成果が表れていると考えます。それぞれの質問項目において、肯定的に回答した児童生徒ほど「自分には、よいところがあると思う」「学校に行くのは楽しい」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになる」のいずれの項目においても肯定的に回答した割合が高くなります。また、両方に肯定的に回答したグループ（個○協○）（※3）がすべての項目において割合が最も高くなりました。尚、この結果については全国においても概ね同様の結果が見られます。



また、正答率のクロス集計を行うと次のように両方に取り組んだグループ（個○協○）の正答率の割合が最も高くなりました。



児童生徒自身のペースで学ぶことで自分の成果を実感でき、また他者と協働することにより、コミュニケーション力や問題解決能力を高めることができると考えます。ウェルビーイングな環境を築き、児童生徒の自己肯定感、自己有用感や幸福感等を向上させていきます。



6 主体的・対話的で深い学び

質問番号	質問事項	津市	県	全国	全国差	R5津市との差
小29	5年生（2年生）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	62.1	64.7	67.6	▲5.5	2.6
中30	5年生（2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	61.2	62.9	64.8	▲3.6	1.4
小30	5年生（2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	80.4	81.3	81.9	▲1.5	1.8
中30	5年生（2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	80.7	82.4	80.3	0.4	▲0.6
小33	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたり（広げたり）することができていますか	86.7	86.0	86.3	0.4	3.7
中33	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたり（広げたり）することができていますか	84.0	86.9	86.1	▲2.1	3.6

主体的・対話的な学びについて、令和4年度より、各校で取組を進めている質問項目です。全国との差はあるものの、概ね上昇し、授業改善の一定の成果が表れていると考えられます。この質問項目に肯定的な回答をした児童生徒は正答率が高い傾向にあります。

上記の質問に肯定的な回答をした割合が全国平均より高い学校は、正答率が高くなる傾向が見られました。また、主体的・対話的で深い学びに関する回答と挑戦心・自己有用感・幸福感等に関する回答には相関関係が見られ、影響を与えている可能性があります。児童生徒が生涯にわたって能動的に学び続ける力を育むために、子どもたちが自ら興味や関心を持って粘り強く取り組める授業づくりを行います。また、児童生徒が互いに意見交換や議論を通じて新たな視点に気づけるよう、協働的な学びを通じて自己の考えを広げることができる授業改善に努めます。

8 今後の改善方策について

(1) 自校の分析について

今年度も各校で児童生徒質問調査を活用した取組をします。継続して重点的に取り組んでいる「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に関する取組について、各校の昨年度の取組状況や今年度の取組内容を記入します。また、それ以外の質問項目で、自校の強み・弱みを把握し、取組を進めます。

右の二次元コードから国立教育政策研究所のサイトにアクセスできます。国立教育政策研究所作成の報告書には、調査の概要や調査結果、各問題の分析結果と課題、授業アイディア例が掲載されています。調査結果から自校の成果と課題を把握し、授業改善に役立てます。



国立教育政策研究所

【〇〇学校】児童生徒質問紙を活用した取組について【津市版】（別紙2-1）									
1 児童生徒質問紙調査結果を役立てるとは									
児童生徒質問紙の結果から自校の強みと課題を把握し、授業改善に活かすことが期待できます。また、児童生徒質問紙の結果から学習態度、学習方法、学習意欲、生活の諸面について自校の状況を把握し、学習の進捗や生活習慣の改善に努めることが期待できます。									
学年	質問事項	津市	県	全国	全国差	R5津市との差	質問事項	津市	県
小29	5年生（2年生）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	62.1	64.7	67.6	▲5.5	2.6	【津市の状況】	53.2	50.6
中30	5年生（2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	61.2	62.9	64.8	▲3.6	1.4	一般生徒から、津市内の小・中学校にて、重点的に取り組んでいる取組です。	60.4	63.2
小30	5年生（2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	80.4	81.3	81.9	▲1.5	1.8	肯定的な回答をした児童生徒の割合が、全国と比較すると高い傾向が見られます。	43.4	40.4
中30	5年生（2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	80.7	82.4	80.3	0.4	▲0.6	これは、各校において、目的意識を共有し、互いの考えを深めたり、新たな考え方に気付いたり（広げたり）することが期待できます。	56.1	55.6
小33	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたり（広げたり）することができていますか	86.7	86.0	86.3	0.4	3.7	今度も、学校の生徒は児童生徒であるという考え方を、主体的・対話的で深い学びの授業改善に役立てていくことが大切です。	48.6	48.6
中33	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたり（広げたり）することができていますか	84.0	86.9	86.1	▲2.1	3.6		▲6.9	▲4.1

2 令和6年度の取組について

児童生徒質問紙の結果から、主体的・対話的で深い学びの観点からの授業改善に関する取組状況について、取組を進めよう。表の空欄に自校の取組を記入し、自校の状況把握すること、津市版、自校で作成した「児童生徒質問紙を活用した取組について【津市版】」の内容を参照し、必要に応じて自校の取組を改善し、必要に応じて取組を定期的に見直しを行うことが大切です。

7 学習習慣

質問番号	質問事項	津市	県	全国	全国差	R5津市との差
小21	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）（1時間以上）	53.2	50.6	54.6	▲1.4	▲2.7
中21	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）（1時間以上）	60.4	63.2	64.3	▲3.9	▲5.2
小22	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）（1時間以上）	43.4	40.4	48.6	▲5.2	▲4.0
中22	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）（1時間以上）	56.1	55.6	63.0	▲6.9	▲4.1

質問調査からわかる本市の課題として学習習慣があげられます。令和3年度以降、この質問項目に肯定的な回答をした児童生徒は全国的に減少傾向にあり、その傾向は本市でも同様であり、課題の一つとなっています。

家庭での学習時間と児童生徒の正答率には、相関関係が見られます。児童生徒の学習段階や学習状況から、計画的に家庭学習に取り組むことができるように、指導の工夫を行うことが重要です。今後、家庭学習で行う個別に取り組む内容と、学校でしかできない協働的な学習について、授業と家庭学習との連動した取組を進めていきます。

(2) 理解と定着に向けたPDCAサイクルの確立

